

東 愛 知 新 聞
2005年(平成17年)3月17日(木曜日)

豊橋ハート
センター

新城市へAED3台寄贈

蘇生率、救命意識高め

医療法人・澄心会「豊橋ハートセンター」(鈴木孝彦院長)は16日、緊急時に一般市民も使用できる救命機器「AED(自動体外式除細動器)」を3台、新城市に寄贈した。

AEDは、心臓突然死の主要因である、意識や呼吸のない人に有効な救命機器で、いわゆる電気ショック装置。電極シートを体に張り付け、ついた機器のボタンを押すだけの簡単操作が特徴。

一般使用も可能になった昨年7月以降、全国の公共施設や学校などへの配置が進む中、同センタ

ーでは、一層の蘇(そ)生率アップや救命意識の高揚を目的に、東三河の各自治体などへの寄贈を決めた。計30台行う計画で、新城市が皮切り。

この日、市役所を訪れた鈴木院長は「これで多くの命が助けられ、(以後は)AED購入のためにも願っている」と期待。山本秀央市長は「あるというだけで大変心強い。感謝申し上げます」とお礼を述べた。

同市では、市役所東庁舎、新城文化会館、市民病院の3カ所に設置する

予定。また、23日には、
職員を対象に講習会を行
うとしている。

(杉森秀房)



山本市長に取り扱いを説明する鈴木院長
—新城市役所市長室で